
木島君の野望

直紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

木島君の野望

【Nコード】

N0509A

【作者名】

直紀

【あらすじ】

小学生の木島は好きな女の子がいる。友人、田中のバックアップでデートの約束が決まった…。

(前書き)

ラブな感じに仕上がったので、苦手な方はすみません(´▽｀) m
田中君の鼻毛を読んだあとなら、一層楽しめると思います。

俺の名前は木島卓哉、私立の小学校に通う4年生だ。

しかし今日は日曜、めんどくさい学校で、勉強しなくてもいいのだ。

ピンポーン インターホンが鳴った、俺は嫌な予感がした

…。しかし母親かもしれない…。俺はゆつくりと扉を開けた…。

「よっ！小島、暇だから遊びに来たよ」

予感的中した…。

こいつの名は田中雄太、クラスでも、NO.1のモテモテ君だ。

俺はコイツの事が嫌いじゃない。しかし、田中に関わると不運に見舞われる…。

「おじやましまーっす」

来てしまったのは仕方がない…。俺は田中を部屋に通

した。

「新しいゲーム買ったからやるか？」

「マジ！？やるやる！！」

田中のテンションが一気に上がった。

ゲームを始めると田中は一言も喋らずに必死になった。

しばらくすると、田中から耳を疑う言葉が飛び出した。

「小島って好きな子いるの？」

その言葉に丁度、口に含んだカルピスを田中の顔に吹き出した。

「汚ったねー！何するんだよ！」

「っーか、突然なに言ってるんだ！！」

俺はカルピスを吹いた事は、悪いと思ったが動揺させられた悔

しさのあまり、逆ギレで対抗した。

「いや、俺らもなんだかんだで4年じゃん。だから、木島に気になつてる子がいたら協力するよ。この前、俺の鼻毛が出てるのを必死になつて、教えようとしてくれた、そのお詫びだ」

悪くない話だ…。

俺には異性として意識する女がいた。

山田典子。

しかしこの女は、学年のマドンナ…。 なかなか難しい話だが…。

「やまだ、山田典子」

「おつ、山田かぁ。俺にまかせろ」

自身満々の田中に、俺は何故か安心した。

それから三日後…。

放課後の教室、俺は日直の掃除を一人でこなす。突然、教室のドアが開いた。

「木島やったぞ！デートの約束取ってやったぞ！」

「ま、マジで!?!」

うれしさのあまり、俺は田中に抱き付く。

「木島が遊びたいらしい、って言ったなら「日曜日なら」って言うってぞ！よかったなあ」

「ありがとう田中、俺は本当にいい友達を持ったよ」

俺には田中が、神のように見えた…。

「木島…告白するならデートの最後にしろ!!」

何故デート初日なのか？まったく理解できない。木島に理由を聞こうとした時だ。

「山田は競争率が高い、次のデートを待っている暇は無い!」

「俺に出来るのはここ迄だ、あとは任せた…」

そう言うと田中は夕日をバックに近所の駄菓子屋に行った

…。

田中…ありがとう。

あれから三日が過ぎた…。

今日は日曜日、俺は今遊園地にいる。 約束の時間に山田は来た。

「ごめん。待った?」

かつ、かわいい!

「今、来たとこだよ」

実は二時間前から待っていた…。

「じゃあ、行こうか?」

「うん」

デートは順調だ、

ジェットコースターにコーヒーカップすべての乗り物に乗り終わり日が沈みだした…。

「最後に観覧車行こうよ」

俺が言うと山田の表情が曇ったように見えた…。

「…いい、いいよ」

二人で観覧車に乗り込み、一番上まで来た…。今だ!!!

「山田って好きな男いるの?」

「えっ!?!」

明らかに動揺した！もしかしたら俺の事が！？

「実は……」

ゴクッ 俺は息を飲む。

「わたし……田中君が好きなの、お願い！協力して！」

……俺は何が起こったのか全く理解できなかった……。

このままゴンドラが落ちる事を願った。

気が付くと俺

は、家にいた。

どうやって帰ったか？

あのあと何を話たのか？

ほとんど

ど覚えていなかった……。

しばらくすると、田中から電話があった。

俺はす

べてを話した。話の最後に

「山田を……よろしく」

そう言つのが精一杯だった。

その日の夜、俺は枕を涙で濡

らした。

(後書き)

最後までありがとうございます、直紀です。今回の話はちょっとラブが入り過ぎ、しかも振られてしまう…悲しい話になってしまい反省してます。次回は木島に幸せになってほしいと思っています。

っーか幸せになってもらわないと困る！！なんか罪悪感…。

って事で次回作もよろしくです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0509a/>

木島君の野望

2010年10月19日14時06分発行